



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)緊急支援



© UNICEF/UNI315509/Ongoro

▲南スーダンで、予防接種のために子どもを連れてきた母親たちに、新型コロナウイルス感染予防の方法について伝える保健スタッフ。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、世界中で1700万人以上の感染が確認され、65万人以上が命を落としています。感染は急速に拡大しており、紛争や自然災害、気候変動によってすでに人道危機に直面していた国々にも広がっています。

ユニセフの分析によると、世界の18歳未満の子どもの約77パーセント(18億人)が、COVID-19により何らかの移動制限を課している132カ国に暮らしています。移動が制限され、衰退する社会や経済の下で暮らす子どもたちは、暴力や虐待、ネグレクトの被害を受けるリスクが高まっています。女性や女の子は、ジェンダーに基づく暴力や性的暴力のリスクが高まっています。難民、移民、国内避難民の子ども、帰還者は、サービスや保護へのアクセスが低下し、外国人への嫌悪や差別にさらされる機会が増えています。

ユニセフは、新型コロナウイルスから最も弱い立場にある子どもを守るため、世界が連携した行動をとるよう呼びかけるとともに、影響を受けている子どもへの人道支援のために、3月下旬に要請した6億5,160万米ドルを更新し、あらためて計16億米ドルの支援を国際社会に要請します。この増加は、パンデミックが社会や経済にもたらした深刻な影響と高まるニーズを反映したものです。

ユニセフ(国連児童基金)は本日、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックによって医療システムが弱体化し、保健サービスが混乱状態にあるため、今後6カ月間、予防可能な原因で命を落とす子どもは、毎日6,000人増える可能性があるとして述べました。

世界人口の40パーセントは手を洗う設備が自宅にない現実

世界の多くの地域では、子どもや保護者、教師、医療従事者、その他コミュニティの人々は、自宅、医療施設、学校などで基本的な手洗い設備を利用できません。最新の推定によると世界人口の40パーセント、30億人が、石けんと水で手を洗う設備が自宅にありません。

開発途上国の4分の3近くの人々は、基本的な手洗い設備が自宅にありません。

貧困層の子ども8,600万人増加のおそれユニセフなど、家庭への支援訴え

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックが経済に及ぼした影響により、2020年末までに貧困下の子どもが15%増加し、最大8,600万人の子どもが新たに貧困に追い込まれる恐れがあるとする新しい分析結果を、ユニセフ(国連児童基金)とセーブ・ザ・チルドレンは発表。



© UNICEF/UNI288583/Frank Dejongh

▲北東部オディエンネの保健所で生まれたばかりの息子に寄り添う母親。(コートジボワール、2020年2月11日撮影)



© UNICEF/UNI302788/Ralaivita

▲小学校の水道で手を洗うマダガスカルの子どもたち。(2020年2月17日撮影)



© UNICEF/UNI323500/Ryeng

▲ジュバのプライマリ・ヘルスケア・センターで、上腕計測メジャーを使って栄養不良の検査を受けるファリダちゃん。(南スーダン、2020年4月20日撮影)



© UNICEF/UNI336453/Fahel

▲アデンに到着した医療従事者のための個人防護具(PPE)を含む支援物資。(イエメン2020年6月6日撮影)

紛争下の子どもたちのため世界的停戦を



© UNICEF/UNI285131/Ashawi

▲激化する紛争から逃れ、イドリブ南部からアレppo県北部のアサズ地区にトラックの荷台に乗って避難する家族。(シリア、2020年1月27日撮影)

今、世界で2億5,000万人の子どもたちが、紛争下に暮らしています。その子どもたち一人ひとりは、紛争の当事者たちが、COVID-19のパンデミックに対応するための国連事務総長による世界的な停戦の要求に従って、武器を置くことを求めています。子どもたちの一人ひとりが、今こそ、暴力から守られる必要があるのです。

新型コロナウイルス緊急募金にご協力を



世界的な人道支援の始動を受け、日本ユニセフ協会は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対応するユニセフの活動を支える緊急募金の受付を開始しました。

お寄せいただいたご寄付は、新型コロナウイルス感染拡大以前から紛争などにより医療体制が脆弱な途上国で命の危険に晒されている子どもたちを最優先に支援します。

なお、本緊急募金を通じてお寄せいただいたご寄付については、日本を含む先進国は支援対象いたしません。

《郵便局(ゆうちょ銀行)振替口座》

振替口座: 00190-5-31000

《口座名義》

公益財団法人 日本ユニセフ協会

◆通信欄に「コロナ」[K1-030]と明記をお願いします。

◆窓口での振り込みの場合は、送金手数料免除。

感染症予防に、正しい手洗いを

石けんを使って「20秒以上」 新型コロナウイルスへのユニセフの対応

例年流行するインフルエンザに加え、今年は新型コロナウイルスの流行拡大が懸念されています。感染症の予防には、石けんを使った手洗いやアルコール消毒液が有効といわれています。

国際衛生年の2008年、ユニセフなどの呼びかけで、10月15日が「世界手洗いの日」(Global Handwashing Day)に定められました。その翌年、日本ユニセフ協会が始めたのが、ユニセフ「世界手洗いの日」プロジェクトです。



©日本ユニセフ協会



©岩手県ユニセフ協会

▲「次は手の甲だよー」と声を掛けながら子どもたちに世界手洗いダンスを教える。世界手洗いの日の振り付けを担当したダンサーの森山開次さん。

▲手洗いダンス どんぐり保育園



日本ユニセフ協会からのお知らせ

一番身近にいるおとなだからできる 子どもの心のケア

新型コロナウイルスは、世界中ほぼすべての国の子どもたちに大きな影響を及ぼしています。日本も例外ではありません。子どもたちの心は傷つきやすい。でも、子どもたちは、自分で回復する力も持っています。「安らぎ」は「心のケア」の第一歩。その「第一歩」が子どもの回復力を左右します。あなたの方で子どもたちに「安らぎ」を与えてください。ユニセフと9年前の東日本大震災で得た知見でまとめた「誰でもできる子どもの心のケア」を紹介しています。

※記事に出てくる「災害」や「被災地」などの言葉は「新型コロナウイルス感染症」などの言葉に置き換えてお読みください。



岩手県ユニセフ協会の活動

日本ユニセフ協会は世界33の先進国・地域にある国内委員会です。岩手県ユニセフ委員会は日本ユニセフ協会地域組織として、世界の子どもの健やかな成長のため、教育、保健、水と衛生、栄養、保護等のユニセフ協力活動を目的としています。

2019年度もみなさまから多くのご支援をいただきました。
2019年度ユニセフ募金 **518万2,240円**
(1月~12月)
賛助会員 **180名** (団体5・一般174名・学生1名)



ユニセフパネル展



ユニセフ出前講座



ハンド・イン・ハンド募金

ボランティア参加・イベント、
ハンド・イン・ハンド募金
述べ **509名**

- ☆ユニセフ出前講座
- ☆親子外国コイン仕分け会
- ☆ユニセフ講座
- ☆ユニセフ・ラブウォークinいわて
- ☆ユニセフ・シアター「ブランカとギター弾き」
- ☆ワン・ワールドフェスタ
- ☆ハンド・イン・ハンド街頭募金活動
- ☆東日本大震災支援ツアア
- ☆ユニセフ募金贈呈

2020年度活動と 新型コロナウイルス感染症の対応

日本ユニセフ協会と全国26地域組織は、3月以降のイベントを中止又は延期。6月25日全国地域組織の交流と対応についてWeb会議を実施しました。

ユニセフの新型コロナウイルス緊急支援について

ユニセフは、途上国などの脆弱な国々の感染拡大を防ぎ、人道危機が起きている国々におけるパンデミックへの対応に焦点を当てて取り組んでいます。コロナ対応で変わっていく世界ですが、変わらないユニセフへのご支援を呼びかけます。その活動方法については変更すべき点が多く出てくると思われます。例えば、すべての活動についてWebやオンラインでの比重が大きくなるのが予想されます。

イベント実施の時には三密をさける

基本的には新しい生活様式の徹底。

- ・ イベント実施の時には参加者の体調の確認を行う。(検温)
- ・ 参加者の連絡先を把握する。
- ・ マスクの着用
- ・ 消毒液の設置
- ・ 人と人との間隔をあける。
- ・ 飛沫を飛ばさないように注意する。

岩手県ユニセフ協会 2020 年度活動

2020年度ユニセフ募金贈呈



▲2月22日 世界のカレンダー展益金
盛岡レオクラブ募金贈呈



▲7月15日 花巻市立八重畑小学校



▲7月17日 盛岡市立高松小学校

ユニセフ出前講座 今後の予定

11月6日(金)
金ヶ崎町立
三ヶ尻小学校 5年生

11月17日(火)
奥州市立広瀬小学校 全校

数字で見る日本ユニセフ協会の 2019 年活動ハイライト

2019年度に日本ユニセフ協会がみなさまからお預かりしたユニセフ募金の総額は、

209 億 8,084 万円。

その81.0% (170億円) はユニセフ本部を通じて世界の支援プログラムに、19.0%は日本国内でユニセフや子どもたちの問題への理解や支援を広げる活動、日本の子どもたちの権利課題の解決に向けたアドボカシー活動などに充てられました。

より多くの支援を得るための
募金活動

子どもたちの問題とユニセフの活動を広める
広報活動

子どもの権利に関する啓発と課題解決に取り組む
啓発・アドボカシー活動

日本国内でのユニセフ活動を支える

国内
の活動へ
19%



世界
の子どもたちへ
81%
拠出の内訳
170億円

世界のユニセフの活動を支える

緊急
拠出 **6.2%** 日本から6カ国・地域へ
10 億 5,613 万円

絶え間ない紛争や自然災害、感染症の流行、食料危機など、緊急に支援が必要な深刻な危機に対処するためにご支援いただいた**緊急募金**からの拠出。

通常
拠出 **82%** 日本から世界へ
139 億 4,531 万円

使用を限定することなく、ニーズに応じて様々なプログラムに用いることができる**通常予算**への拠出。厳しい状況にありながら、世界の注目を浴びることのない国々の子どもたちへの支援を可能にし、中長期的な支援を支えます。

指定
拠出 **11.8%** 日本から31カ国へ
19 億 9,856 万円

水と衛生、教育、HIV/エイズなど特定の活動分野や、国・地域を指定してご支援いただくなど、特定のプロジェクトを複数年にわたってご支援いただく**指定募金**からの拠出。

募金活動

広報活動

啓発・アドボカシー活動

2019 年度
募金総額



209 億 8,084 万円

年間
10 万ドル以上のご支援 (法人)



10 団体

ユニセフ募金に
取り組んだ学校



全国 **8,810 校** へ

街頭募金
(ハンド・イン・ハンド
募金キャンペーン)



920 件

外国コイン
募金



7,148 万円 相当

報道機関向け
情報発信
(プレスリリース)



179 本

報道露出
(新聞、雑誌、TV)



3,268 件

公式ホームページ
(ニュース記事
掲載)



240 本

YouTube
投稿動画



年間視聴
回数 **70 万** 件

シンポジウム・
活動報告会



全 **7 回**
参加者総数 **464 名**

ユニセフ・シアター
(映画上映会)



全 **13 回**
参加者総数 **853 名**

学校等への
講師派遣



404 件
(受講者: 42,069 名)

ユニセフ・
キャラバン・
キャンペーン



11 県訪問
(ユニセフ教室: 22校 4,141 名 訪問)

インターンシップ
プログラム
海外インターン
カンボジア、
インドなどの
現場事務所へ



4 名
国内インターン
日本ユニセフ
協会各部門へ **4 名**

ユニセフハウス
展示見学



14,532 名

SDGs 推進
(学習副教材配布)



全国中学 3 年生対象
120 万部

事務局から

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックによって、活動も一変し戸惑いながらも2020年度もはや後半期。在職中からユニセフ岩手県支部設立に関わり、退職後、事務局長として15年余りみなさまに支えられ、この度退任いたしました。

ご指導いただいた日本ユニセフ協会や全国の地域組織のみなさま、県内のユニセフ活動を支えてくださったみなさまに心から感謝申し上げます。

1988年、故大木真一先生(県支部設立発起人メンバー)と一緒に川徳前のハンド・イン・ハンド街頭募金活動に

参加したことが、ユニセフ活動のはじまりでした。

設立10周年を迎えた2011年にユニセフ東日本大震災緊急・復興支援に地元として参加しました。言葉では言い尽くせない被災地のみなさまとのかわり、子どもたちとのふれあい、今でも続く交流の数々を胸にこれからもユニセフに関わっていききたいと思っております。

ユニセフご支援のみなさま本当にありがとうございます。

(前事務局長) 藤原 綾子

岩手県ユニセフ協会
事務局長

反町 久美

この度、事務局長を引き継ぐことになりました。岩手県ユニセフ協会の設立から今まで奮闘なさって来られた藤原さんの足元にも及びませんが、少しずつ近づけるよう努力をしていきたいと思っております。どうぞ、これからもご協力をよろしくお願いいたします。

花巻友の会 チャリティーバザー



例年会員さんには大好評のチャリティーバザーです。

日時 2020年 **10月24日(土)** 9:00 ~15:00
会場 花巻市 妙圓寺

ハンド・イン・ハンド街頭募金

～世界の子どもたちのために～



ボランティア募集!!

盛岡市内・宮古市内12月13日、花巻市内12月12日の予定

日本ユニセフ協会賛助会員として、世界の子どもたちを応援してください。

○ 賛助会員ってなあに？



ユニセフ日本委員会として、日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー(政策提言)活動を担う日本ユニセフ協会を、年会費によってご支援いただく方法です。会員登録をしていただき、日本ユニセフ協会の機関誌やささまざまなユニセフの資料を通して、世界の子どもたちのおかれている状況について理解を深めてみませんか。国内で行われるユニセフ協力活動の情報を入手し、さまざまなイベントにご参加ください。

○ 賛助会員の種類・会費・会員期間

種類	対象	賛助会員	賛助会費	賛助会員期間
①一般賛助会員	個人の方	1口	5,000円	入会月～1年間
②学生賛助会員	18歳以上の学生の方	1口	2,000円	入会月～1年間
③団体賛助会員	団体、法人、企業	1口	100,000円	入会月～1年間

※一般・学生賛助会員は個人名でのお申込みに限ります。

※賛助会員は寄付控除の対象になります。

賛助会員を希望される方は県ユニセフ協会まで。

オンラインユニセフ講座



コロナの時代をどう生きるか

～心の健康のためにできること～

新型コロナも第一波が収まりかけてきていますが、第二波はどうなんだろう。いつまで予防に気を遣うといいのだろう。

そもそも新型コロナって何？

いろんな疑問や不安がまだまだ渦巻いていて、心もすっきり晴れていない。

そんな日々が続いているのではないだろうか。

この講演会は、そんな新型コロナウイルスや感染の仕組みなどをイラスト共に分かりやすく解き、その上でこれからの「コロナと共に生きていく時代」をどう乗りきっていくといいのかを共に考える講演会です。



講師：桑山 紀彦

精神科医、心療内科医、医学博士
 特定非営利活動法人 地球のステージ 代表理事
 山形大学医学部卒業。同大学大学院博士課程修了。医学博士。専門は内閣府、心理社会的ケア、トラウマ精神医学、ウイルス感染症にも知見が深い。1996年より1997年8月「地球のステージ」を主宰して、全国の学校を中心に音楽と映像のコンサート「地球のステージ」を公演して24年。もうじき4000回を越えようとしているが、新型コロナウイルスで「地球のステージ」公演は相次いで延期。一方で同学生で友人でもある岩手大学のウイルス学教授の協力を受け、新型コロナウイルスとどう生きていくかをテーマに講演活動を行っている。
 2020年3月、バシチナでの心のケア活動が認められ、医療功労賞受賞。コロナ禍を生きる心の持ちようについて、ニュース23「TBS」にも出演。

企画・制作：特定非営利活動法人 地球のステージ

岩手県の新型コロナウイルス感染者は、第2波でどうなるのでしょうか。不安な日々を送っている方も多いと思います。

特定非営利活動法人地球のステージ代表理事桑山紀彦氏は、精神科医、心療内科医として、「地球のステージ」を全国の学校中心に開催し、県ユニセフ協会でも何度か公演しています。

ウイルス感染症にも知見が深く、コロナの時代をどう生きるか学び、共に考えてみませんか。

2020年
日時 **10月18日(日)** 10:00～11:30
 オンライン講演・質疑応答
会場 岩手教育会館 2階 カンファレンスルーム201・202
定員 35名 **受講料** 無料
受付 9月1日～ 岩手県ユニセフ協会まで 電話又はメールで
 TEL 019-687-4460 FAX 019-687-4491
 E-mail sn.iunucef_iwate@todock.coop

子どもの権利条約30周年記念

ユニセフ・シアター・シリーズ 『子どもたちの世界』



『風をつかまえた少年』

7月25日、盛岡市プラザおでってで上映。
 11月、宮古市で上映予定。

